



福岡県立大学と 共に歩む会 会報

令和2年 5月号
第305号

発行責任者 秋吉 一明
編集責任者 爪田 寿子

風薫る青葉の季節となりました。皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、福岡県立大学及び田川市郡に関する情報をご紹介します。

🌸 留学生がお茶会に参加しました。 🌸

2月29日に、福岡県立大学共に歩む会に誘われて、プロバスクラブのお茶会と昼食を参加させていただきました。実は、今回は田川に来てから、二回目のお茶会です。この前、歩む会の末広先生のお宅で日本に茶道を体験させていただきました。茶道の文化や作り方を詳しく教えていただき、緊張しながらミスも多かったし、足が痺れて辛かったですが、茶道について身をもって体験することは、外国人に対して、ありがたい機会です。



振り替えてみると、今年は日本語を勉強して6年目ですが、日本に来る前に日本文化と接する機会は正直に教科書ばかりでした。お茶会の直後、歩む会のおかげで、『日々是好日』という映画を見ました。茶道についてより一層理解できるようになりました。そういえば、実は、日本の茶道文化は昔の中国から伝えられてきました。中国の現代社会には、茶道文化はまるで高嶺の花のような存在で、身分と成功をマークする象徴だといえます。それと比べて、日本の数多くの大学には、茶道のサークルがあり、それは若者にとって、伝統文化を体験できる良い機会だと思います。



プロバスクラブのお茶会は学校の近くの和食のお店で行いました。最初には、あるお爺さんが司会者を担当して、感謝と振り返りの言葉を話して、出席してくれる方々を紹介して、そして私たち留学生が自己紹介をしました。その後、お菓子を出してくれました。旬のお菓子ではないかなと思いながら、隣の重藤さんに聞きました。そして、お茶が座りの順番で一番奥から一人ずつ出してくれました。お菓子の甘味とお茶の渋さが口の中で融合して、何となく気持ちがリラックスになりました。

その間、ずっと疑問を抱いた私が、お爺さんたちに田川の昔と現状を聞きました。石炭に恵まれた小さな都市として、昔には日本全国からの人々がここに集まって、炭鉱を掘りに来ました。最大で、十万人ぐらいでした。その後、炭鉱が掘り切られたことに伴い、人々が他の都市に移住したり、大都市に就職したりして、田川市の人口はだ

んだん減って行って、今が四万人ぐらいです。それも、私が初めてここに来た時、一番ショックしたところでした。スーパーに行っても、レストランに行っても、若者が少ない、レジやバイトする人も主婦やおばさんが大きな比重を占めています。これは日本の高齢化社会の縮図といえると思います。

しかし、日本のお年寄りは非常に充実した生活を過ごしていることも今回のポロバスクラブから覗きました。定期的な活動はお年寄りの生活を充実させる一方、友達作りやコミュニケーションにも役に立つと思います。定年退職後は新しい人生が始まるのではないのだろうか。好きなことやしたいけど時間がかかることをしっかりできるようになったというのは理想的な晩年生活だと思います。(宋欣桐 2020年2月29日)



留学生活のまとめ

吉林大学珠海学院 留学生 周 慧貞



一年の留学生活は終わりました。この一年の間で、ここで様々なことを体験しました。色々勉強になりました。とても充実した一年だと思います。

私たちは桜が咲く季節に来ました。帰るのは雪が降る季節です。この一年の間、令和改元、バイト、一人の旅行など色々体験しました。とても楽しかったです。そして、ここの人々の親切さを感じました。学校で色々面倒を見てくれた先生たち、色々な活動を行って、誘ってくれた歩む会の皆さん、この一年の間で、本当に感謝しています。

学校の支援授業のおかげで、色々な日本の文化を体験しました。田川の石炭博物館から、最後の陶芸まで、田川の文化だけでなく、日本の伝統文化も体験しました。学校以外、バイトもしました。始めてそんなに長い時間で、同じところで、バイトしました。バイトしているとき、接客に関する言い遣いをたくさん習いました。そして、店で友たちを作り、とても楽しいバイトの経験だと思います。

また、共に歩む会の皆さんのおかげで、色々な活動に参加しました。最初の歓迎会から、令和改元のカウントダウン、祭り、南京の先輩たちの送別会、海辺へのゴミ拾い、最後の送別会まで、全部、楽しい記憶ばかりです。また、歩む会のおかげで、色々な「はじめて」を体験できました。はじめての祭り、はじめてのバーに行った、はじめての酒体験、これはとても大切な思い出で、大切にします。

歩む会の活動以外、印象を残るのは、京都に旅行することです。交通やホテルなど全部自分で計画します。でも、旅行が順調に進む時、本当に嬉しかったです。そして、京都の旅本当に楽しかったです。今も京都の景色が覚えています。ちょうど秋の最後で京都に行って、古い寺と山々の紅葉と一緒に、美しい絵になりました。

異国で生活するのは寂しいです。しかし、ここの人々のおかげで、とても充実した生活を過ごしました。本当にありがたいです。一年は長いです。365日あって、毎日授業やバイトで満ちています。しかし、一年も短いです。ここに来た日はまるできのうのようです。この一年間、いろいろお世話になって、本当にありがとうございます。

私は中国で田川の皆さんはずっと健康するように願っています。



留学の感想

吉林大学珠海学院 林 怡辰

いつの間に1年の時間が過ぎてしまいました。1年前にここに来て、未知への恐怖と未来への好奇心を持って、私の日本留学生活を始めたことを思い出します。最初にここに来て、私はまだ大学2年生で、日本語もあまり上手ではなく、人とのコミュニケーションに大きな障害がありました。そして



少しずつ安心してきたのは、日本語の授業を担当する伊藤先生と支援班の河野先生と他の先生たちです。日本語の授業中、伊藤先生は一人一人の弱いところによって、教えてもらえました。私は何も言えなくても熱心に日本語を教えてくれて、私の文法の間違いを優しく正して直してくれます。授業の後にも、近況を聞いて、私達の心身の健康にます。たまに私たちと冗談を言って、教室には笑いに満ちている。伊藤先生から日本の伝統文化について多くのことを学びましたし、伊藤先生には特に感謝しています。

そして河野先生も、専属日本人の優しさや思いやりを感じさせてくれました。河野先生が毎回の支援活動に寄り添ってくれて、そのたびに私たちの動向を丁寧に見守ってくれて、一緒に楽しい時間を過ごしてくれました。そして祝日のたびに、河野先生も日本の特産品を持ってきてくれて、それぞれのお祭りに感動して、河野先生の関心がなくて、私もこんなに早く集団に溶け込むことはできませんでした。

そして、この一年間歩む会の皆さんにも感謝したいと思います。来日初期は日本の生活は慣れていないのではないかと恐れていましたが、たまにはアルバイトの機会を提供してくれるし、よく遊びや食事に連れて行くこともあります。みんなのおかげで、この場所をもっと深く知り、田川の情熱や魅力をもっと認識させていただきました。行楽中、留学生の交流も促進した。この一年間も世界中から多くの友人ができたが、一番多かったのは日本人と韓国人だった。学校で組織された留学生パーティーでは各国の友達と知り合いました。

学校が手配した相手は私の最も親しい日本人の友達で、私たちはよく一緒に遊びに行っていて、彼女は私の行きたいところに連れて行ってってくれて、日本のものを紹介してくれました。彼女からたくさんのことを学び、日本人の情熱を感じさせてくれました。私たちはぴったりの友達です。未来には私も彼女と連絡を保つことができます。毎日一緒に居る留学生たちを離れることを考えると、私は非常に残念な気持ちになっていた。私は彼らとたくさんすばらしい時間をすごして、最初は私たちの関係がこんなに良いとは思っていませんでした。これは私の日本での最大の収穫だったはずで。

この1年間、日本についての知識があることを深く学び、学校組織のイベントでは地元の代表的な場所にたくさん行き、陶芸を学んで着物を着て、花火大会を見たりしていました。この1年間でほとんどの日本文化を勉強してきたと言えます。もし双方の学校が今回の留学機会を提供しなければ、私はこんなに早く日本文化を深く理解することはできないと思います。

ここで私の留學生活の思い出は終わりました。未来はどうあれ、この年に与えてくれたすべて、歡喜の言葉を思い出します。ここの善良で優しい人と親切に指導してくれた先生たち、更にここで一緒に努力した仲間を忘れません。中国には昔のことわざがあって、「この世に終わらない宴席はない」というものだ。私たちにはそれぞれの道があり、どんな楽しい時間もいつかは終わってしまいます。この一年間得た感動と知識を私の前進の力に変えて、みんなの祝福を持って前に進んでいきます。留學で出会ったすべての面白い、善良な人、みんなとの出会いはすべて私の貴重な記憶になります。



毎年恒例のプランターの花植えをしました。

杉町



肌寒さに冬の名残を感じさせる、3/17 土曜日、パンジーのプランター植え替えボランティアに参加しました。ご無沙汰しております、杉町です。

途中からの参加であったためプランターの土の掘り起こし作業はほとんど終わり、パンジーの植え替えから始めました。植木さん、重藤さん、古部さんを始め、ボランティアの方々の見慣れた顔ぶれと、中国からの留学生の皆さんも黙々と作業をされていました。慣れた作業であるはずが数年ぶりのため、どことなく要領を得ずに作業していましたが、

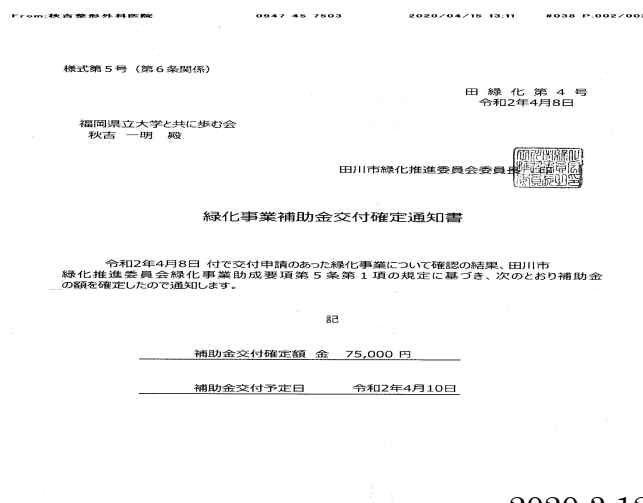
あっという間に植え替えは終わり、色鮮やかなパンジーたちが、県立大の新入生が目にするであろう校舎の要所要所に配置されていきます。留学生の皆さんもプランターを軽トラに積み込んだり、プランターへの水まきと大活躍でした。



作業が終わり、慰労会は伊田の老舗お好み焼き屋船場へ。労働後のためか、いつもなのかは分かりませんが、御三家はひとまず瓶ビール、留学生の皆さんはジュースで乾杯。留学生の皆さんはお好み焼きが焼きあがるとしきりにスマホのカメラでお好み焼きを撮影。普通に会話ができるので、留学生である事を忘れそうですが、目新しい料理のようで黄色い声をあげながら、お好み焼きを味わっていました。植木さんのお好み焼き焼き方講座も交えながらゆったりとしたひと時でした。

最後に、最近私も共に歩む会の活動に参加していなかったのが堂々とは言えませんが、参加者が減少している事を植木さんが言われていました。盛大にとまではいかななくても、今後は出来るだけ共に歩む会行事に参加して、地道な活動の一助となれればと思っている次第です。プランター植え替えに参加された皆様、本当にお疲れ様でした。

(この事業は田川市緑化基金の補助をいただいで実施しています。)



2020.3.12 トンソク Party やっててよかった！

今後の予定

◎ 例会や総会の会場が使えません。

感染症拡大防止の為、福岡県立大学より連絡があり定例会の部屋の貸し出しを当面中止するという事です。

◎ 5月にやっていた「大学住民交流会」もコロナのせいで開催できません。

◎ 川渡り神幸祭 も 中止になりました。

◎ 街灯の白熱灯を電球型 LED に取り替えます。電気代半額になるそうです。また、大学のプランターの片付けも行います。自治会の学生さんにも声をかけています。

何だか訳のわからない出来事だらけです。

RIYA SOKOL という女性が気になることを発信しています。

お暇ならネットで検索してみてください。

「ありがとう、コロナウイルス」 THE WORLD IS CHENGING NOW